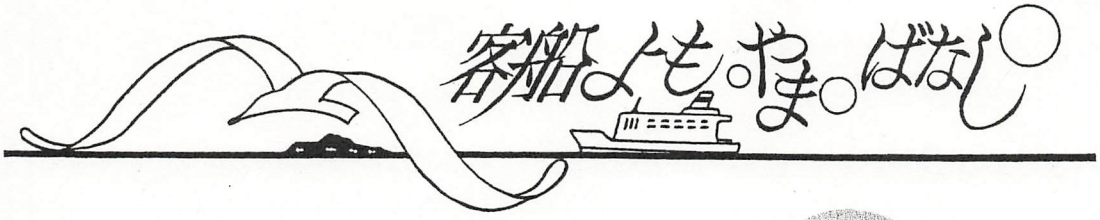


〈連載(232)〉

世界最大のクルーズ客船「オアシス・オブ・ザ・シーズ」に乗船（2）

大阪府立大学大学院・海洋システム工学分野・教授
池田　良穂

前号に続き昨年12月にカリブ海に登場した22万総トンのクルーズ客船「オアシス・オブ・ザ・シーズ」について紹介をしよう。

最近の大型のクルーズ客船やクルーズフェリーでは、船体中心に船長方向に長い吹き抜けのアーケードを設けて、このセンターアーケードに面したインサイドキャビンに窓を設置した船が多い。レジャーを楽しむためのリゾートホテルで窓のない部屋に滞在したくないのと同様に、客船でも、できれば窓付きのアウトサイドキャビンに泊まりたいと思うのは極めて自然なことだと思う。しかし、現代の大型クルーズ客船の成功要因のひとつは、「リーズナブルプライス」であり、これを実現するためにはできるだけたくさんの乗客を乗せて、乗客1人当りのコストを下げることが必要だ。このため幅広の船体の内部には、たくさんの窓のないインサイドキャビンを配置する必要があった。

この大型客船には当たり前であったインサイドキャビンに窓をつけようというユニークな発想が、船首から船尾まで続く「センターアーケード」だ。この発想は、まずバルト海の6万総トン型クルーズフェリー「シルヤ・シンフォニー」と「シルヤ・セレナーデ」の姉妹に取り入れられ、その後、カリブ海のRCIのクルーズ客船「ヴォイジャー」級（14万総トン）、「フリーダム」級（16万総トン）の各船にも取り入れられた。これらの船のセンターアーケードは、4～5層の吹き抜けとなっているが、これには設計上の難しさがある。それは巨大な吹き抜け構造への防火扉設置の問題だ。

これまでの船では、4～5層の吹き抜けのアーケードをいくつかのブロックで遮断する巨大な可動式防火扉が開発された。しかし、吹き抜けの高さが5層を越えると、こうした可動式防火扉の設置も難しい。そこで、「オアシス・オブ・ザ・シーズ」では、インサイドのセンターアーケードは3層として、その上に8層もの天井のないアウトサイドのセンターアーケードを設けるというコンセプトを導入した。最上部の2層はプール等が配置されたサンデッキである。そして、このアウトサイドのセンターアーケードの基部はインサイドのセンター

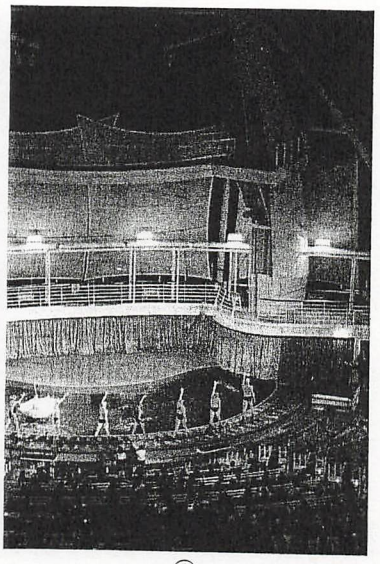
アーケードの天井にあたり、そこには本物の木々を植えたセントラルパークとメリーゴーランドや野外劇場のあるボードウォークが出現した。

これまでのクルーズ客船では、海風を浴びられる露天デッキは、最上階のサンデッキだけだったのが、このアウトサイドのセンターアーケードも加わり、海の空気を感じながら船旅気分を満喫できる空間が増えたことは嬉しい。

「オアシス・オブ・ザ・シーズ」

①

②



③

①インサイドのセンタープロムナード　②アウトサイドのセンタープロムナード「セントラルパーク」
③野外劇場「アクアシアター」での飛び込みショー

安全面でも大きく進化をしている。例えばSOLAS条約に新たに導入された「セーフ・リターン・トゥー・ポート」、すなわち、「損傷時の安全な帰港」要件についても、この船にはいち早く取り入れられ、エンジンルームおよび推進・操舵機の２重化、帰港までの乗客・乗員の生活インフラの確保がされている。

さらに驚かされたのは、救命艇の大きさである。これまでは150名までとされていた救命艇が、定員370名という巨大な双胴タイプの船が開発されて搭載されていた。また、これまでキャビンに用意されていた乗客用ライフラクトは、避難時に指定されたマスターステーションに用意されるようになり、ボートドリルの時にライフラフトを身につけて避難の訓練をすることがなくなった。これは、これだけ大型になると緊急時にキャビンに戻ってライフラフトを着用するというのは現実的でなく、避難集合した場所にライフラフトを準備する方が合理的という判断であろう。また、ボートドリルでマスターステーションに集まった乗客がルームキーを船員に提示すると、コンピュータが読み取り、自動的に操舵室の内部にあるセキュリティ&セーフティ・コントロール室の画面に集計されるシステムになっていた。これで、義務付けられている避難訓練をこっそりとサボるということはできなくなった。このように8000以上の乗客・乗員を積む巨大船なので、特に安全面には最新の技術とシステムが導入されている。

現代クルーズの魅力は、なんといっても乗客の選択肢が広いことだ。「フリーダム・オブ・チョイス」が、多数の乗客全員の満足度を挙げる。

クルーズ客船では、食事は基本的にクルーズ料金に含まれており、船内のどのレストランで食事をしても、特別なレストランを除くとお金を払うことはない。各乗客にテーブルが指定されているメイン・ダイニングルーム以外に、たくさんのレストランが朝から晩までオープンしている。例えば、朝食時には、メインダイニング以外に、カフェテリア式やファーストフード式も含めて５つのレストランを自由に使うことができる。昼食は６つ、夕食には２つだが、さらに３つの特別レストラン（有料予約制）からも選ぶことができる。

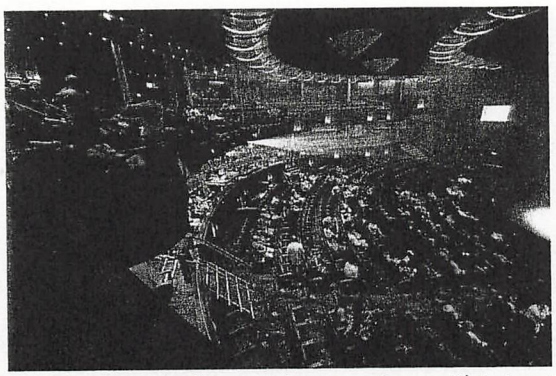
夕食後のメインショーについても、劇場でのミュージカルやラスベガスショー、スタジオBでのアイスショー、野外劇場でのアクロバット、プールでの飛込みや踊りのアクアショーなどから自由に選ぶことができる。もちろん、各ラウンジでは、ピアノ、ギター、ロックなど様々な音楽が行われている。もちろん、どのイベントに参加しても無料だ。

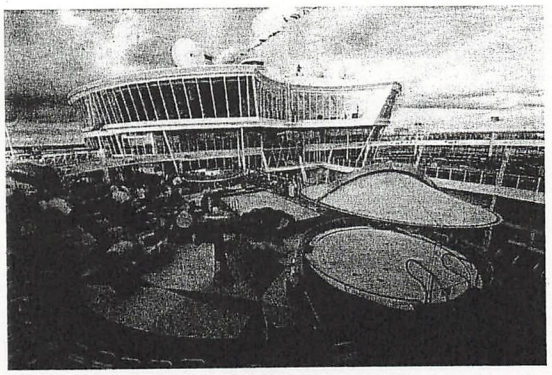
小腹が空いたら、軽食が食べられる店が10ケ所もあり、24時間オープンのカフェもあるから食に関する心配は全くない。

最近のクルーズ客船は、「三世代船」をキャッチフレーズにしており、「オアシス・オブ・ザ・シーズ」も同様だ。祖父母、父母そして子供が、みんなで楽しめるようになっている。幼児からティーンエイジャーまで、２～３才ごとに設定された子供向けプログラムが充実しており、それぞれの

専用ルームも確保されている。専属のスタッフが、子供たちの面倒をみてくれている間に、大人はゆっくりとしたリゾート気分を満喫することができる。子供部屋付のキャビンがいくつも用意されているのも、こうした家族連れをクルーズの次のターゲットに据えているからに他ならない。

こうした充実したリゾート空間が１週間でカリブ海を回る。そして、その料金は１日当たり１万円からだから、陸上のレジャーよりははるかにコストパーフォーマンスが高く、多くの人々がクルーズに殺到するのはしごく当然と言える。こうした膨大なクルーズ需要が、１隻1300億円と言う巨大なクルーズ客船まで産むようになっている。





子供用プールとブロードウェー・ミュージカル、ラスベガス・ショーなどが行われるメインショールーム